

動物実験に関する自己点検・評価報告書

大阪公立大学大学院医学研究科

動物実験施設

— 令和 6 年度分 —

2025 年 6 月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 □ 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 「大阪公立大学動物実験規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（以下「飼養保管基準」という。）と文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（以下「基本指針」という。）に則って、「大阪公立大学動物実験規程」、「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」が定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 □ 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検の対象とした資料 「大阪公立大学動物実験規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」「委員会名簿」「動物実験委員会組織図」
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 動物実験委員会は、施設管理、実験計画審査、教育、施設審査の各小委員会を設置している。毎年の動物実験委員会の開催と毎月の実験計画審査小委員会など活発に運営されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

3. 動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 □ 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 「大阪公立大学動物実験規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」 「大阪市立大学大学院医学研究科動物実験施設・利用の手引き」 「動物実験計画承認申請書等の様式集」「動物実験計画承認申請書の審査結果一覧」
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 実験立案から結果報告に至るまで上記資料に細かく定められており、それに沿って実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。
--

☐ 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 「大阪公立大学動物実験規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」 「大阪市立大学大学院医学研究科動物実験施設・利用の手引き」 「発がん物質等危険物質を使用する動物実験に関するガイドライン」 「大阪公立大学遺伝子組換え実験規程」「大阪公立大学バイオリスク管理規程」 「大阪公立大学バイオリスク管理規程実施要綱」「大阪公立大学病原体等安全管理区域運営細則」 「大阪公立大学及び大阪公立大学工業高等専門学校化学物質管理規程」 「大阪公立大学及び大阪公立大学工業高等専門学校化学物質管理要綱」
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 安全管理については管理規程や内規、手引き等に詳細に定められており、また、学内の「遺伝子組み換え実験安全委員会」「バイオリスク管理委員会」等が定める規程に従って動物実験が実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果 ☒ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
「大阪公立大学動物実験規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」 「動物実験施設（本館・南館・学舎地下3階）飼養保管施設設置承認申請書・通知」 「飼養保管施設設置承認申請書」
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験委員会の施設審査小委員会が9件の飼養保管施設（動物実験施設本館・南館・学舎内）および33件の動物実験室（学舎内、南館内）として、厳しい基準をもって審査・監督している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

特になし。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に機能している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 大阪公立大学動物実験規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」 「大阪公立大学阿倍野地区動物実験委員会議事録」「動物実験実施講習会記録」
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 大阪公立大学動物実験規程に基づいて、学長の諮問機関として委員会を開催し、関連事項について審議している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

2. 動物実験の実施状況

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「大阪公立大学動物実験規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」 「大阪市立大学大学院医学研究科動物実験施設・利用の手引き」 「動物実験計画承認申請書」「実験計画変更・追加審査結果」 「動物実験計画承認申請書の審査結果報告書」
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 上記規程等を遵守して動物実験計画承認申請書を審査し、学長の承認を得るとともに、結果報告書と動物実験自己点検表により動物実験の実施状況を把握確認している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。 □ 該当する動物実験を行っていない。
2) 自己点検の対象とした資料 「大阪公立大学動物実験規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」 「大阪市立大学大学院医学研究科動物実験施設・利用の手引き」 「発がん物質等危険物質を使用する動物実験に関するガイドライン」 「大阪公立大学遺伝子組換え実験規程」「大阪公立大学バイオリスク管理規程」 「大阪公立大学バイオリスク管理規程実施要綱」「大阪公立大学病原体等安全管理区域運営細則」 「大阪公立大学及び大阪公立大学工業高等専門学校化学物質管理規程」 「大阪公立大学及び大阪公立大学工業高等専門学校化学物質管理要綱」
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 上記資料の関係箇所遵守に加え、感染実験室や組換え実験エリアなど特殊エリアでは専用の担当者を配置し、それ以外についても管理の注意点など、飼育実験現場との連携を強めている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 評価結果 ■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「大阪公立大学動物実験規程」「阿倍野地区動物実験委員会管理・運営・利用内規」 「大阪市立大学大学院医学研究科動物実験施設・利用の手引き」「微生物モニタリング記録」
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 実験現場を中心に実験動物管理者は、上記資料に定められた内容に従って管理業務を実施している。飼養保管は、規程や手引きの手順に則り動物種等それぞれに適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 評価結果 ■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「動物実験委員会資料」「動物実験施設飼育室温湿度点検記録」「動物実験施設入退室管理記録」 「物品購入・修理依頼記録」
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 施設の特徴や利点を損なわず適正な実験環境を維持できるよう、常に管理に努めている。令和6年度は、大型高圧蒸気滅菌器の更新(本館)を行った。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

6. 教育訓練の実施状況

1) 評価結果 ■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「動物実験実施講習会記録、講習会受講者名簿」
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 大学の Moodle システムを用いて e-learning で動物実験実施講習受講を開始している。受講状況については、講習内容内で出題される試験について全問正解していること、受講時間より確認している。動物実験実施講習会受講の有効期限が3年間となったことから、有効期限が切れた施設利用者は再受講を行う形となった。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 評価結果 ■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「大阪公立大学動物実験に関する自己点検・評価報告書」「年度報告（ホームページ）」
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 大学のホームページで自己点検・評価報告書をはじめとして、大阪公立大学大学院医学研究科動物実験施設における動物実験に関する情報を公開している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

1) 大阪公立大学大学院医学研究科における動物実験委員会の構成

①大阪公立大学大学院医学研究科動物実験委員会の構成

部局名	部局動物実験委員会の委員長又は実験動物管理者	動物実験等に関して優れた見識を有する者	実験動物に関して優れた見識を有する者	その他学識経験を有する者
医学研究科	2	12	2	1

②部局動物実験委員会の構成

阿倍野地区動物実験委員会 17 名

2) 飼養保管施設の名称

- ・医学研究科動物実験施設本館
- ・医学研究科動物実験施設南館
- ・学舎地下 3 階動物実験施設 動物実験処理室
- ・医学部学舎地下 3 階動物実験施設 第 1 動物実験室
- ・医学部学舎地下 3 階先端融合研究施設 (第 3 動物実験室、動物実験準備室 2)
- ・大阪公立大学大学院医学研究科先端融合暗室 2
- ・大阪公立大学大学院医学研究科先端融合実験室 5
- ・大阪公立大学大学院医学研究科先端融合実験室 8
- ・大阪公立大学大学院医学研究科先端融合第 2 動物実験室

3) 当該年度の実験計画申請書の承認件数

278 件

4) 動物種ごとの使用数

マウス 32,797 匹、ラット 2,115 匹、ウサギ 88 羽、モルモット 0 匹、
ハムスター 0 匹、イヌ 6 頭、鳥類 15 羽